

しものせき Port News

令和5年12月
Vol.29

国土交通省九州地方整備局下関港湾事務所広報誌 しものせきポートニュース

Contents

新港地区（新港地区）

泊地整備の実施状況

港湾施設・海岸保全施設に使用するブロック製作状況

国際クルーズ客船 初寄港情報

トピックス 未来の若手技術者育成支援

下関工科高等学校の現場見学会

山口大学の現場見学会

下関市立桜山小学校のみなと見学会



新港地区（長州出島）

新港地区（長州出島）

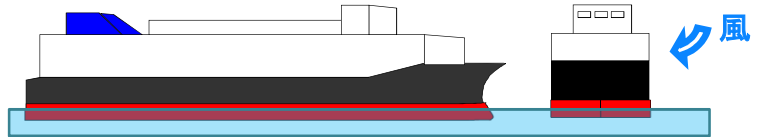
泊地整備の実施状況

令和5年10月上旬、新港地区において、泊地の浚渫作業（グラブ浚渫船を用いて、所定の水深まで海底を掘り下げる作業）を再開しました。泊地とは、船舶が安全に停泊できる場所や水域のことです。

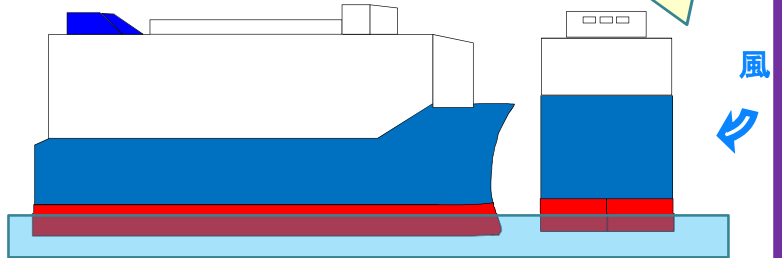
泊地の拡幅については、物流岸壁を利用するPCC船（自動車運搬船）の側面が広く、貨物船に比べて潮流や風の影響を大きく受けやすく、流されて浅海域に近づく危険があります。そのため、浅所箇所への船舶の乗り揚げによる海難事故防止や荒天時の避泊地を確保することを目的に浅海域の除去を行っています。



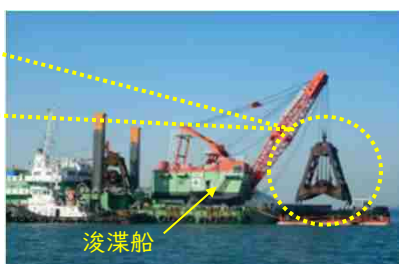
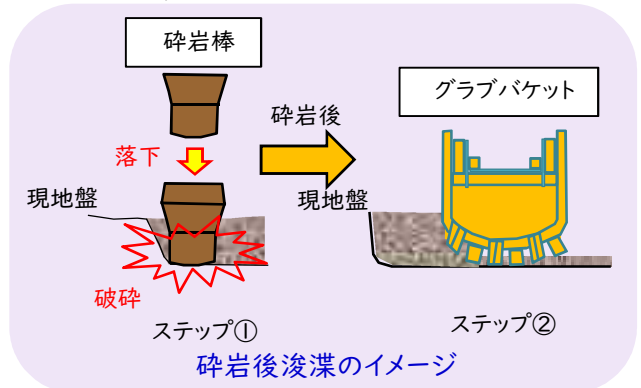
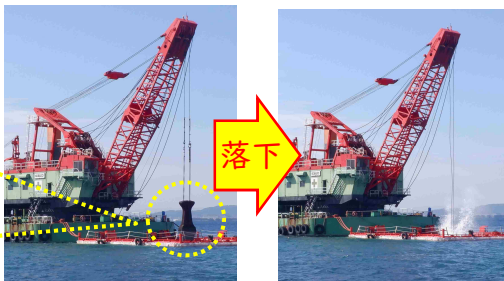
【一般的な貨物船】



【PCC船(自動車運搬船)】



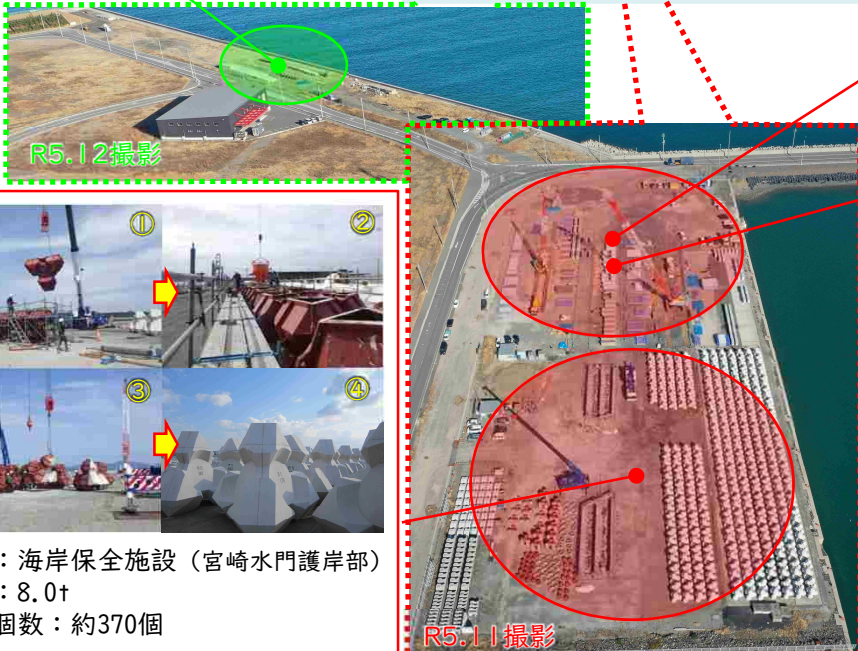
拡幅範囲の海底地盤は、非常に固い岩盤であり、通常のグラブバケットを使用した浚渫では効率よく土砂を除去することができないため、先に50tの砕岩棒で事前に地盤を砕き、その後、アタッチメントをグラブバケットに取り替えて、土砂を掴み除去することで所定の水深まで掘り下げています。



新港地区（長州出島）

港湾施設・海岸保全施設に使用するブロック製作状況

現在、長州出島内において、港湾、海岸工事に使用する様々な形をしたコンクリートブロックを製作（約900個製作予定）しています。今回、ブロック製作（①型枠組立⇒②コンクリート打設⇒③型枠取り外し⇒④ブロック完成）の流れを紹介します。今後、製作したブロックは、トレーラーや作業船を利用して各工事現場へ運搬し利用されます。



① 用途：海岸保全施設（7工区）
重量：2.8t
製作個数：約300個

② 用途：港湾施設（本港地区）
重量：4～20t
製作個数：約130個

③ 用途：海岸保全施設（宮崎水門護岸部）
重量：8.0t
製作個数：約370個

④ 用途：港湾施設（本港地区）
重量：9～20t
製作個数：約100個

R5.12撮影

R5.11撮影

本港地区にて使用するブロックは、トレーラー等が通行する施設に利用します。大きな荷重がかかるため、ブロック内に鉄筋を配置することでブロックの強度を向上させています。

また、このブロックは沿岸域にて使用し、海水や飛来する塩分の影響を受け、コンクリート内の鉄筋が錆びやすくなることから、エポキシ樹脂塗装を施した鉄筋を使用することで腐食を防ぎ、構造物の耐久性を向上させています。



【樹脂塗装鉄筋】

国際クルーズ客船 初寄港情報

令和5年10月19日（木）、新港地区（長州出島）に国際クルーズ客船、メディタラニアが初寄港しました。同客船は、天津港（中国）を発港し、済州島（韓国）を經由して、下関港に入港し、乗客は、ツアーバスを利用して、関門地区周辺の観光スポットを巡っていました。



船名：Mediterranea
（メディタラニア）
総トン数：85,619トン
全長：292m
乗客定員：2,680名
乗組員数：878名



唐戸周辺のにぎわいの様子

3 トピックス 未来の若手技術者育成支援

昨年度に引き続き、小学生、高校生、大学生を対象にみなとの現場見学会を開催しましたので、その様子を紹介します。見学会を通じて、港湾の役割や工事の規模感等を伝え、将来の技術者の育成に繋がることを期待します。

下関工科高等学校の現場見学会

令和5年11月7日(火)、山口県立下関工科高等学校の2年生18名を対象に、関門港湾建設(株)と共同で現場見学会を開催しました。

午前中は、下関港と関門航路の事業紹介、その後、船上から関門航路や下関港海岸工事を見学、下船して当事務所構内の船舶修理ドックを見学しました。午後からはグラブ浚渫船に乗船し、浚渫グラブ等の装置や浚渫船内を見学しました。

生徒からは、「港湾の仕事について学べたことで興味がわいた」「将来を考える上で選択肢が増えた」「浚渫船の迫力が凄かった」等の感想がありました。



事務所内にて事業概要説明



浚渫船内見学



浚渫船内でグラブバケットを見学

山口大学の現場見学会

令和5年11月15日(水)、山口大学工学部社会建設工学科の3年生33名を対象に、新港地区(長州出島)の施工業者※のご協力のもと、現場見学会を開催しました。

当日は、新港地区(長州出島)の港湾利用状況や港湾工事の様子を直接見てもらい、下関港、関門航路の説明を通じて、港湾整備の必要性等を学んでもらいました。

学生からは、「スケールが大きく圧倒された」「港湾に対してより興味を持つきっかけとなった」「今後の自分の未来像を想像することができた」等の感想がありました。



浚渫船に乗船し作業状況の見学



ブロック製作工事の現場見学



管理棟屋上より

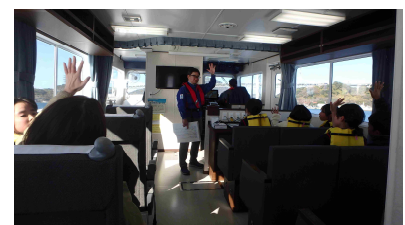
※ご協力頂いた施工業者の皆様 関門港湾建設(株)、(株)ショウエイ、住吉工業(株)、成建工業(株)

下関市立桜山小学校のみなと見学会

令和5年12月8日(金)、下関市立桜山小学校の5年生23名を対象にみなとの見学会を開催しました。

みなとの必要性、下関港の特徴や関門航路の役割を学習してもらい、海上から関門海峡沿いの下関・門司港の街並みや下関港の港湾施設などを見学しました。

児童からは、「船からいろいろなものが見られて楽しかった」「フェリーを見て港の大切さが分かった」「連絡船で巖流島に行ってみよう」等の感想がありました。



業務艇に乗船し海上見学



国土交通省 九州地方整備局
下関港湾事務所

〒750-0066 山口県下関市東大和町2丁目29-1
TEL(083)266-3291
HPアドレス <https://www.pa.qsr.mlit.go.jp/shimonoseki/>

「海と港の総合窓口」
全国共通フリーダイヤル **0120-497-370**
受付時間:9:30~12:00と13:00~17:00(土・日・祝を除く)

ご意見・ご感想をお聞かせください。

